

第3回櫛田川自然再生推進会議資料

【平成28年度の取り組みについて】

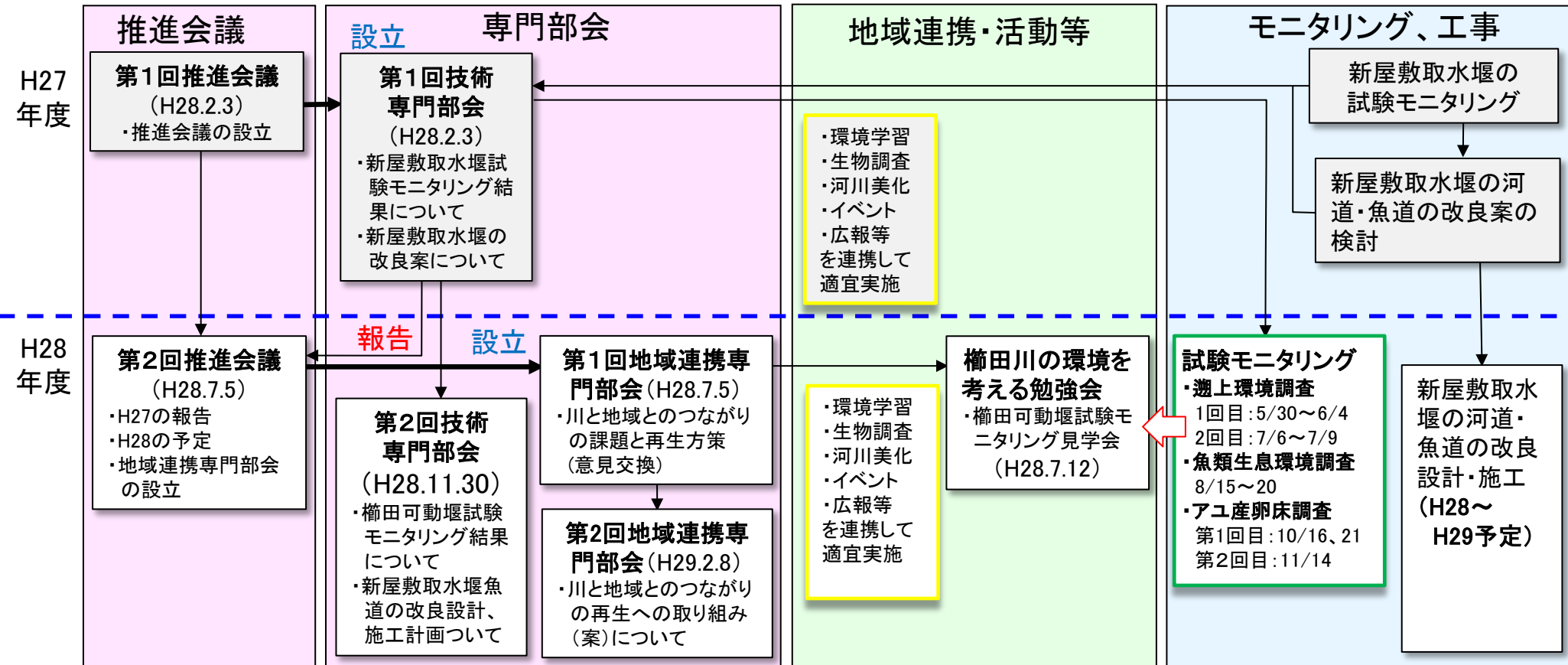
平成29年8月1日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

H28の取り組みについて

- ・推進会議（第2回）を開催し、第1回技術専門部会（H27実施）の報告、**地域連携専門部会設立**について協議・調整。
- ・地域連携専門部会（第1回、第2回）を開催し、**櫛田川と地域とのつながりの再生への取り組み**について協議・検討。
- ・櫛田可動堰において試験モニタリング調査を実施し、**現右岸魚道の改良効果、魚類等の遡上・生息環境等**について検討。
- ・技術専門部会（第2回）を開催し、**櫛田可動堰における調査結果、新屋敷取水堰の魚道改良設計**について協議・調整。
- ・**新屋敷取水堰において、左岸中央寄りの位置に台形断面式魚道と扇形棚田式魚等の設置工事**を実施。
- ・櫛田川の環境を考える勉強会として、**櫛田可動堰の試験モニタリングの現地見学会**を実施。

●H28の取り組みの実施状況



H28 モニタリング調査の内容【調査内容・調査地区】

・調査内容と調査地区については、次のように実施。

(1) 魚類遡上環境調査

右岸魚道の改良試験施工により、**呼び水効果（魚類の誘導効果）**、**魚道の遡上効果**を把握。

●地区：櫛田可動堰下流

(2) 魚類生息環境調査

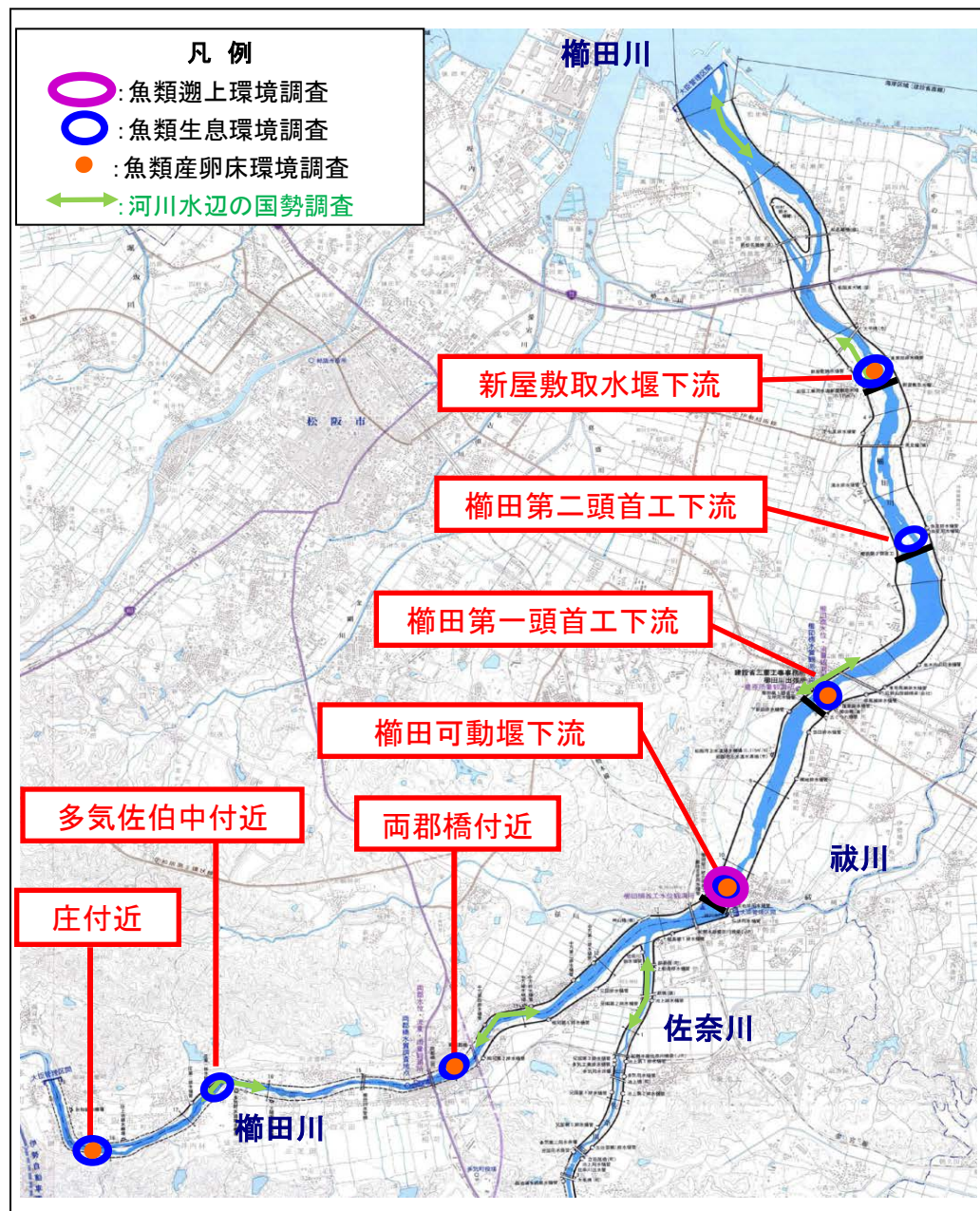
魚類採捕により、**魚類の生息分布**状況を把握。

●地区：新屋敷取水堰下流、櫛田第二頭首工下流、櫛田第一頭首工下流、櫛田可動堰下流、両郡橋付近、多気佐伯中付近、庄付近

(3) 魚類産卵床環境調査

石起こし・潜水観察により、**アユの産卵状況**を把握。

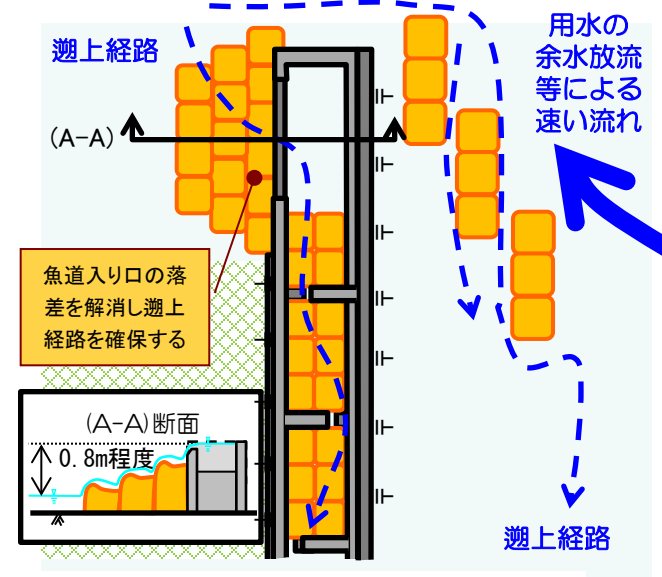
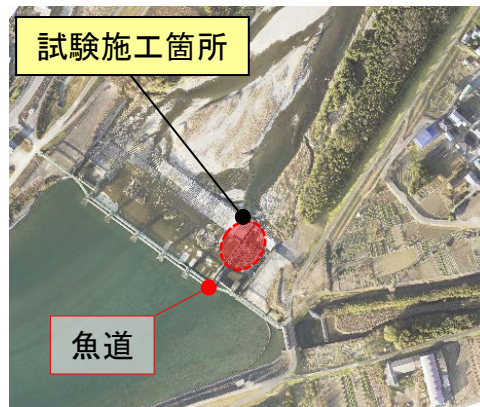
●地区：新屋敷取水堰下流、櫛田第一頭首工下流、櫛田可動堰下流、両郡橋付近、庄付近



調査地区の位置図

■試験施工

- 仮設魚道工：魚道入り口に**仮設魚道を設置して入り口落差を改善**し、魚道遡上状況、堰下流の集魚状況、魚道内での必要流量を確認。
- プール水深調整：**魚道内プール**の水深を浅くして、魚類の遡上・滞留状況の変化を確認。
- 仮設減勢工：**右岸余水放流等からの流れについて、流速を低減**した場合の遡上状況を確認。



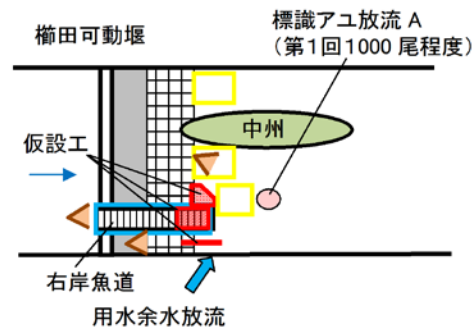
■遡上環境調査

- 右岸魚道出口及び堰下流の各地点（右下図）において定置網による採捕調査を実施し、各地点の遡上数、サイズ等を把握。標識アユ放流調査も実施。
- 遡上調査後に、潜水目視調査と投網による採捕調査を実施し、堰下流における魚種（アユの標識有無）、個体数、サイズ等を把握。
- 調査結果から、**右岸魚道の試験改良等による魚道の遡上効果や呼び水効果を把握**。

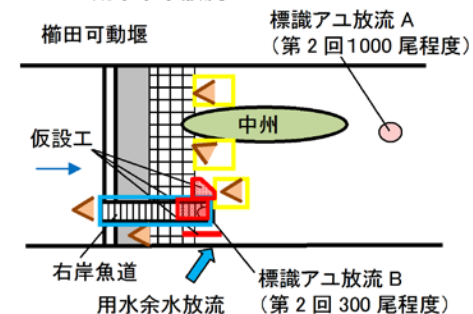
採捕調査(下流)
 目視調査(魚道内)
 ◀ 採捕調査

H28魚類遡上調査の調査内容

【第1回目】



【第2回目】



標識アユ放流位置と定置網等設置位置

調査回	ねらい	調査日	標識魚放流	採捕箇所(定置網)
第1回目	・H24遡上調査との比較による効果把握	5/31～6/1(1日間) (24時間)	-	・仮設魚道上流端(現魚道出口) ・右岸水叩き遡上口 (仮設減勢工の上流側) ・右岸瀬の上流(堰直下)
	・試験施工による遡上機能の分析、効果把握	6/1～4(3日間) (24時間×3日)	・魚道入り口下流 (1000尾程度)	
第2回目	・試験施工による遡上機能の分析、効果把握 ・用水余水放流の右岸への呼び水効果の把握 ・魚道内の遡上・滞留の状況変化の把握	7月上旬に実施予定 (3日間) (24時間×3日)	・堰下流中州の下流側 (1000尾程度) ・魚道最下流プール内 (300尾程度)	・仮設魚道上流端(現魚道出口) ・右岸水叩き遡上口 (仮設減勢工の上流側) ・右岸魚道下流 ・左岸護床工直下 ・右岸瀬の上流(堰直下)

H28 地域連携専門部会の実施状況

1. 地域連携専門部会の設立

- ・地域住民等により櫛田川の自然再生の観点から地域振興等のための検討を行い、実施していく。

2. 進め方

- ・櫛田川と地域とのつながりの再生の観点から、課題と目標、方策等について意見交換を行い、「川と地域とのつながりの再生への取り組み（案）」を整理。
- ・具体的な取り組みは、できるところから連携して進め、情報共有していく。

